

平成29年10月 東京地区百貨店売上高概況

平成29年11月21日

I. 概況

1. 売上高総額	1,261億円余
2. 前年同月比	-0.3% (3か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭0.2%(91.8%) : 非店頭-6.2%(8.2%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成29年9月対比±0店)
5. 総店舗面積	843,650㎡ (前年同月比:-4.4%)
6. 総従業員数	18,155人 (前年同月比:-3.4%)
7. 3か月移動平均値	3-5月 -0.7%、4-6月 -0.2%、5-7月 -0.3%、 6-8月 1.0%、7-9月 2.1%、8-10月 2.5%

[参考] 平成28年10月の売上高増減率は-4.4%

【特徴】

- (1) 東京地区の入店客数は2週連続週末に上陸した台風や土曜1日減の影響を受け、半数の店が前年実績を下回ったものの、合計値では各店が販促策等を積極展開した結果、その減少幅は0.5%減と、売上高(0.3%減)同様にほぼ前年並みの水準にとどめた。
- (2) 衣料品は4.3%減と3か月ぶりにマイナスとなった。細分類では、気温低下でブルゾンやコートなどの重衣料や冬用肌着が好調だった紳士服(0.7%増)、ベビー・マタニティの動きがよかった子供服・洋品(0.3%増)は健闘したものの、主力の婦人服・洋品(7.1%減)をカバーするまでには至らなかった。
- (3) インバウンドだけでなく国内需要も拡大している化粧品は、しわ改善などエイジングケア化粧品の人気が高く、26.2%増と31か月連続プラス。高額商材(美術・宝飾・貴金属)では、特に高級腕時計が押上げる形で高伸び6.5%増と6か月連続プラス、この結果、雑貨トータルでも二桁増のプラス13.1%と、11か月連続で増勢を維持している。
- (4) 一方、家庭用品(13.6%減)は前年の大口受注の反動や売場のリース転換によりマイナス。食料品(3.0%減)も、依然、鮮魚不漁や季節野菜の不作等による価格高騰が続いており、前年をクリアできなかった。
- (5) 年々盛り上がりを見せるハロウィン商戦は、食品売場を中心にメーカーと連携したキャンペーンやイベントが好評を博し、集客・売上に貢献するとともに、百貨店ならではの楽しさを創出している。
- (6) 11月中間段階の商況は、6.3%増(11/16)で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.9日 (前年同月比 -0.1日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見ると傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 4店、②変化なし: 6店、③減少した: 9店
- (3) 10月歳時記 (秋物商戦、秋の行楽)の売上 (同上/有効回答数12店舗)
①増加した: 3店、②変化なし: 6店、③減少した: 3店

東京地区百貨店 売上高速報 2017年10月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	126,152,849	100.0	-0.3
紳士服・洋品	13,067,259	10.4	0.7
婦人服・洋品	24,150,989	19.1	-7.1
子供服・洋品	2,518,432	2.0	0.3
その他衣料品	2,382,959	1.9	-5.2
衣 料 品	42,119,639	33.4	-4.3
身のまわり品	17,909,079	14.2	-1.4
化粧品	13,455,655	10.7	26.2
美術・宝飾・貴金属	8,734,232	6.9	6.5
その他雑貨	5,052,767	4.0	-3.4
雑 貨	27,242,654	21.6	13.1
家 具	1,383,968	1.1	-11.7
家 電	608,713	0.5	16.1
その他家庭用品	3,314,885	2.6	-18.1
家 庭 用 品	5,307,566	4.2	-13.6
生 鮮 食 品	4,145,724	3.3	-8.0
菓 子	6,818,412	5.4	-3.3
惣 菜	6,676,856	5.3	-3.5
その他食料品	7,884,217	6.2	0.5
食 料 品	25,525,209	20.2	-3.0
食 堂 喫 茶	2,893,380	2.3	-4.1
サ ー ビ ス	2,001,391	1.6	-7.8
そ の 他	3,153,931	2.5	18.8

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	2,242,950 千円	11.1
従 業 員 数	18,155 人	-3.4
店 舗 面 積	843,650 m ²	-4.4
営 業 日 数	30.9 日	前年 31.0 日

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が11か月連続のプラスとなった。また、家庭用品が14か月連続、食料品が4か月連続、衣料品と身のまわり品が3か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が31か月連続、美術・宝飾・貴金属が6か月連続、紳士服・洋品、子供服・洋品、その他食料品が3か月連続、家電が2か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-0.3	-	3か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	0.7	0.1	3か月連続プラス
婦人服・洋品	-7.1	-1.5	2か月連続マイナス
子供服・洋品	0.3	0.0	3か月連続プラス
その他衣料品	-5.2	-0.1	2か月ぶりマイナス
衣料品	-4.3	-1.5	3か月ぶりマイナス
身のまわり品	-1.4	-0.2	3か月ぶりマイナス
化粧品	26.2	2.2	31か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	6.5	0.4	6か月連続プラス*
その他雑貨	-3.4	-0.1	2か月ぶりマイナス*
雑貨	13.1	2.5	11か月連続プラス
家具	-11.7	-0.1	2か月ぶりマイナス
家電	16.1	0.1	2か月連続プラス
その他家庭用品	-18.1	-0.6	7か月連続マイナス
家庭用品	-13.6	-0.7	14か月連続マイナス
生鮮食品	-8.0	-0.3	20か月連続マイナス*
菓子	-3.3	-0.2	4か月連続マイナス*
惣菜	-3.5	-0.2	2か月連続マイナス*
その他食料品	0.5	0.0	3か月連続プラス*
食料品	-3.0	-0.6	4か月連続マイナス
食堂喫茶	-4.1	-0.1	2か月連続マイナス
サービス	-7.8	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他	18.8	0.4	3か月連続プラス
商品券	11.1	0.2	2か月ぶりプラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>